

災害から

命を守るために

日頃からの備えが重要

近年、台風や局地的な豪雨で、多くの被害が発生しています。
26年8月の台風第11号のときは、市内で冠水や土砂災害の他、家屋の一部破損や床上・床下浸水などの被害が出ています。
自分自身と家族の命を守るには、日頃からの備えが重要です。
防災マップで避難場所や避難ルート、非常持ち出し品の確認、連絡方法などを決めておきましょう。
防災マップをリニューアル
新しくなった防災マップを広報誌と

同時に全戸配布しています。

防災マップには、地図上に洪水や土砂災害の被害が想定される区域の他、避難所などを掲載。併せて「防災行政無線等の情報配信手段」や「日頃の備え」「市の防災・減災対策の取り組み」などの情報も掲載しています。

25年改定版との主な変更点

①猪名川（滝山より下流の国管理河川）の浸水想定区域を28年6月に猪名川河川事務所が公表した、「想定最大規模降雨」による区域に変更②原則立ち退き避難が必要な、「家屋倒壊等氾濫想定区域」の追加③土砂災害警戒区

出水期に備え、防災マップで避難所を確認

域（黒川地区19カ所）の追加④避難所と福祉避難所の追加
▼「浸水想定区域」とは、各河川において想定される条件で、大雨が降った場合の河川氾濫により想定される浸水の範囲と深さを国または兵庫県が指定した区域▼「家屋倒壊等氾濫想定区域」とは、一定の条件下で、家屋の倒壊・流失をもたらすような堤防決壊に伴う激しい氾濫流や河岸浸食が発生することが想定される区域▼「土砂災害警戒区域」とは、土石流や崖崩れが発生する危険性があり、人家などに被害を及ぼす恐れのある区域
【防災マップ（ウェブ版）】
グーグルマップで、洪水や土砂災害の危険区域、避難所情報などを閲覧できます（下の2次元コード、または市ホームページから閲覧可）。家庭や地域で災害時の避難マップも作れます。
防災行政無線テレホンサービス
防災行政無線が聞き取れなかったときは、テレホンサービス0120（367）889で確認できます。
県住宅再建共済制度
フェニックス共済
6月2日（金）、7月3日（月）、8月3日（木）午前10時～午後4時、市役所1階市民ギャラリーで、説明と申し込みの受け付けを行います。加入には印鑑と口座番号が必要。詳しくは（公財）県住宅再建共済基金 ☎0797（83）3122へ。

【防災マップ地図面に掲載している避難所の注意事項】

牧の台幼稚園	29年4月以降、園舎を使用できません。牧の台小学校を利用してください。
総合体育館、川西小学校、栄根会館、川西幼稚園、小花会館、鶴寿会館、下加茂会館、加茂第二会館、南花屋敷中央会館、東久代春日会館、東久代会館	洪水時は2階以上に避難（1階は使用できません）。
多田東会館、アステ川西びいぶう広場、東洋食品工業短期大学（体育館）	洪水時は開設しません。
福祉避難所（全13施設）	要配慮者などの状態により、必要に応じて開設します。災害発生当初は開設しません。



問合せ 危機管理室 ☎(740)1145

市民が安心して暮らせる医療体制を整備

市立川西病院の改革案を作成

「キセラ川西センター」と「北部急病センター」を整備

市立川西病院の経営改革を進めるため、「(仮称)市立総合医療センター」を33年夏ごろに向けて整備する案を作成しました。

同案では、同センターの整備に伴い、現在の市立川西病院は閉鎖。キセラ川西地内に、本院に当たる「キセラ川西センター」を、能勢電鉄「山下」駅周辺に、分院に当たる「北部急病センター」を整備します。

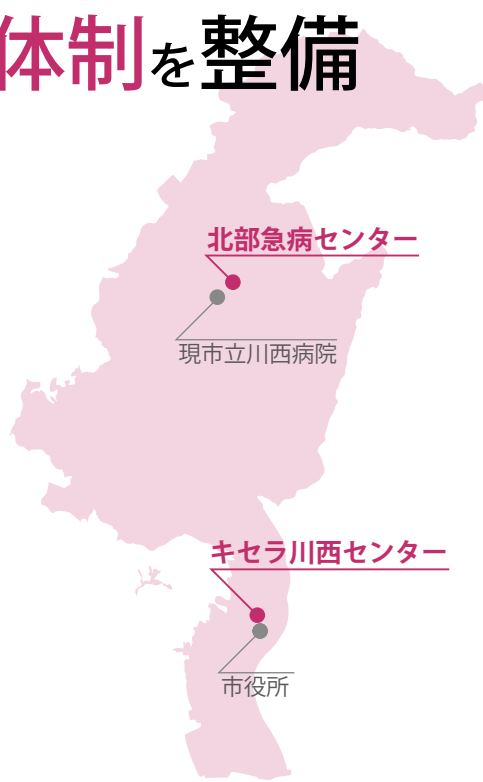
キセラ川西センターの診療体制は、現在の13科3専門センターから26科8専門センターに、病床数は236床から400床に増設し、高度急性期へも対応。

北部急病センターには内科、整形外科、小児科を整備。24時間体制で急病患者などに対応します。

また、(仮称)市立総合医療センターの運営には、経営の安定化を図るため、民間に委託する指定管理者制度を導入。

整備事業費は約176億円で、このうち指定管理者で5割、地方交付税交付金で4割を賄うことができると想定しているため、市の負担は実質1割となります。

今後、指定管理者の選定を行い、30年夏ごろに基本構想のパブリックコメントを実施する予定です。詳しくは経営改革課 ☎(740)1120へ。



川西市長の あんばい話

安心して暮らせるまちに
市立川西病院の改革に挑む

6月に入り梅雨のシーズンを迎えました。近年、集中豪雨や台風による被害が毎年のように各地で発生しています。その中でも、想定を超えた、数百年に一度と言われるような降雨による、洪水や土砂災害といった事例が増えているように思います。
今回、リニューアルした防災マップなどをあらためて確認し、万が一に備えていたきたいと思っています。

防災対策と併せて、安全のまちづくりに欠かせないのが、市民の皆さんが安心して暮らせる医療体制の充実です。
先日、市立川西病院の改革に向けて「(仮称)川西市立総合医療センター」構想案を発表しました。同病院は、34年前に現在の市北部に建設され、これまで地域医療を支えてきました。しかしながら、経営状況が悪化し、26年度には経営健全化団体に陥りました。
私は、市長に就任して以来、病院経営の立て直しのため、精一杯努力してまいりましたが、経営難の深刻化や施設の老朽化などを総合的に判断し、今回の構想案の策定に至りました。

運営については先駆的な手法を導入し、市北部の医療についても、しっかりと対処したいと考えています。市の医療体制を守るため、引き続き取り組んでまいりますので、ご理解いただきたいと思います。

大塩 民生

あんばい
をまち
かわにし